



令和4年度第2回広島市幼稚園教諭・保育士新規採用者合同研修会

今年度2回目の新規採用者合同研修を令和5年2月2日（木）・10日（金）に広島市総合福祉センター（BIG FRONT ひろしま）で開催し、2日間で計214名の参加がありました。

「子どもの遊びを通した育ちや学びについて」と題し、みどりの森保育園、広島市立緑井幼稚園、広島市大河保育園、認定こども園ほうりんこころ幼稚園の先生より、それぞれ動画で実践発表していただきました。実践発表後には、広島市乳幼児教育保育アドバイザーの支援のもと、5～7人のグループで子どもの姿について意見交流し、子ども理解を深めました。

【受講者のコメント】

〈実践発表で心に残ったこと、参考になったこと〉

- ・ 普段から、子どもが主体的に行動する姿を尊重し、見守る体制が根付いていると感じ、自身の保育を顧みて参考にしたいと思いました。
- ・ 保育を進めていくことに精一杯ですが、子どもの姿をじっくり観察することの大切さが分かりました。子どもの表情、つぶやき、行動から遊びの展開や力の向上に繋げていきたいです。
- ・ 上手くいったり、いかなかったりしながら試行錯誤していく子どもの姿が集中力に繋がると感じました。
- ・ 保育者が全て手伝うのではなく、子どもに「どうしたらいいかね？」と問いかけていて、子どもが自分で考えるきっかけになっていると感じました。

〈グループワークで、心に残ったことや参考になったこと〉

- ・ 動画を見て感じた子どもの姿を他の人と共有すると、自分とは違う見方について知ることができ、多様な考えがあることを知りました。
- ・ なぜ、子どもがその行動を取ったのかについて、じっくりとグループワークで話しができ、意見を出し合うことで、子どもの主体性について学ぶことができました。
- ・ 子どもの姿を文字にして可視化すると、全てのことが繋がっていることが分かり、サイクルができていたと感じました。
- ・ 実践発表をされた先生とグループワークの時間に話すことができ、より学びが深まりました。



実践発表



グループワーク



グループワークで作成した図

来年度も開催いたします。皆様の参加をおまちしております。

乳幼児教育保育アドバイザーによる支援事例

「特別支援についての研修」（12月）

【支援内容】

特別支援に関する専門的な知見があるアドバイザーが、保育園を訪問しました。アドバイザーは、子どもの姿を参観した後、保育者の悩みを聞き、特別な配慮を要する子どもの理解や、肯定的に関わる支援について助言を行いました。

【園の感想】

保育者が取り組んでいる支援方法について「このまま続けるとよい。」「この方法で取り組んでみるとよい。」など具体的に教えていただきました。また、保育者が取り組んでいる支援方法について誉めてもらい、保育者の意欲が高まりました。

【発行元】

「広島市乳幼児教育保育支援センター」

〒730-8586

広島市中区国泰寺町一丁目4番21号

広島市教育委員会事務局総務部教育企画課内

E-mail : nyuyouji@city.hiroshima.lg.jp

電話番号 : (082) 504-2833

Fax 番号 : (082) 504-2509



乳幼児教育保育アドバイザー派遣案内2次元コード

障害のある子どもへの支援について

近年、障害のある子どもの支援は、幼稚園、保育園、認定こども園、児童発達支援センターなど多様な場で行われています。受入れに当たっての基本的な考え方や配慮事項について紹介します。

子ども理解

すでに専門機関等に相談している子どもについては、園と専門機関が連携を図り、一人一人に応じた手立てを検討していきましょう。

発達障害等の可能性がある子どもについては、子どもの様子や支援が必要となる場面について整理し、生育環境等の経験不足についても併せて考え、支援していきましょう。

他の子どもにとっても、園生活を通して多様な人と出会い、関わり、共に過ごすことは、園生活を豊かなものにするとともに、共生社会の構築に向けた基盤となるため、一人一人の特性をその子らしさとして受け止め、助け合える関係を育みましょう。



保護者との連携

保護者の不安を受け止め、寄り添うために、保護者が相談しやすい雰囲気づくりや園内の体制の整備をしましょう。

まずは、子どもの興味・関心や成長の様子、子どもが困っている場面とその際に保育者が行っている手立てを家庭に細かに伝えるとともに、家庭での様子について聞き、共に考えていきましょう。

障害等の可能性がある子どもについては、保護者の障害受容を急がず、心の揺れなど保護者の気持ちを受け止め、取組を支えるなどして信頼関係を築くことや、保護者の要望などを受容する姿勢をもつことを大切にしましょう。

園生活における個別の支援

子どもの興味や関心を生かした保育や、得意なことを伸ばしつつ苦手なことにも挑戦する体験の積み重ね等、一人一人に応じた適切な支援を行うために、専門的、客観的な視点から実態を捉え、個別支援計画をたてましょう。

子どもの状況や配慮等について正しい理解と認識を深めていくために、職員間の連携やケース会議での手立ての検討・共有等、園全体で対応していきましょう。



小学校への接続

保護者の意向や本人の教育的ニーズ等を整理し、保護者と連携した接続体制を整えましょう。接続時には、園等での支援の過程や子どもの成長について小学校と情報共有し、連携を図りながら就学を支援していきましょう。



竹内 吉和
竹内発達支援 Co.代表
公認心理師、臨床心理士
特別支援教育スーパーバイザー
法務省中国地方更生保護委員 他



七木田 方美
比治山大学短期大学部
幼児教育科 教授



李木 明徳
広島文教大学人間科学部
人間福祉学科 教授

気になる子どもの行動への支援の仕方等、相談できます。派遣については、[広島市乳幼児教育保育支援センター](#)に御連絡下さい。



古澤 正憲
元広島市立小学校長
元広島市小学校研究会
特別支援教育部会会長



大政 里美
元西部こども療育センター
なぎさ園 園長
広島西こども発達センターくれよん
バイザー



小川 裕子
元西部こども療育センター
なぎさ園 園長
社会福祉法人 清流 さつきの家 施設長

乳幼児教育保育アドバイザーに相談してみませんか？